

〔續修東大寺正倉院文書 四十四〕竹田眞弓謹解 申闕臺事

合貳枚 藤。繖端。

右件員闕臺者戒壇院盜此者、專眞弓等求成進上申已訖、仍狀具注謹以解、

天平神護元年四月十六日

頭 竹田眞弓 四人略

凡福成解 申闕物事

薦繖端疊壹枚

右爲春季花嚴會用請下所闕如件、此追勘求進上申訖、

元年四月十六日

凡福成 略 下

〔名目抄 雜物 ムラサキエリ〕紫端

〔類聚名物考 調度 四〕紫端疊

今案に、當時御所の御疊のへりは、緋紅にてすれども、是を紫縁といはる、也、古へのむらさきは、緋に似たること、これにても知らる、事なり、

〔延喜式 齋宮 鋪設 五〕

齋内親王板牀二張、紫端帖二枚 略 中 右齋内親王向國鋪設初年當國供之後年寮司備之、

〔延喜式 縫殿 三年一度雜物 十四〕

御服床敷料、紫端疊四枚 各長八尺、廣五尺、略 右中宮御服所料依前件、女官申内侍、即付辨官行、

〔西宮記 四月〕改御裝束

御座 掃部司 三日掃部寮進端料請奏 加三宮料、藏人奏下 紫端廿五枚 十五枚侍料、十枚長一丈餘、小板敷料、 八枚女房侍料、

〔小右記〕治安三年四月十六日己酉、今日賀茂祭 略 中 殿上人座紫端疊、黑柿机 略 下

〔定家朝臣記〕康平二年十月十二日癸酉、供養無量壽院并五大堂、去九日、始奉仕御裝束、北庇并北廊